

(2) 各病院における医療安全向上に向けた取組状況

【がんセンター】

- 全体目標を「アクシデントを未然に防ぐ」とし、重点テーマを3つ（「ブリーフィング・デブリーフィングの活用」「情報伝達エラー防止」「レベル0報告の増加と活用」）設けました。各部署は重点テーマから1つを選択し、年間目標を定めました。各部門が主体的に改善活動を実施しました。
- 重大事故防止のため、インシデントレベル0及び1の報告数の増加を目標とし、前年度より2.6%増加しました。

【救急医療センター】

- 研修により職員の患者誤認に関する認識が高まり、上半期はインシデント報告が前年より3.4倍に増えました。下半期は、患者確認に関するルールの遵守やダブルチェックを強化したことで上半期より76.5%減少しました。
- 重大事故防止のため、インシデントレベル0～2の目標報告件数を年間1100件以上とし、達成しました。

【精神科医療センター】

- 患者誤認をゼロにするため、患者確認に関する方針や手順の周知に努めました。また、インシデント報告があれば、分析を行い改善に努めました。
- 報告文化の醸成を目標にインシデント報告を年間1,100件以上と設定し、達成しました。

【こども病院】

- 気道管理の事故防止を重点目標とし、気管切開患者の入浴手技、気道管理について手順の見直しを行いました。気管管理に関するインシデント報告は77%減りました。
- RRT（Rapid Response TEAM）を立ち上げ、毎週のラウンド等で急変リスクの高い患者等の情報共有を行い、早期対応が行えるようになりました。

【循環器病センター】

- 報告文化の醸成を目標として、インシデント報告件数は、前年度より5.8%増となりました。
- 自施設の「静脈注射に関するガイドライン」の遵守を徹底するため、静脈注射認定制度を設け、合格者を認定しました。

【佐原病院】

- インシデント報告活動が活性するよう、多職種で業務改善に取り組みました。前年度の1.3倍に報告数が増加しました。
- 安全対策の推進として、医療事故を未然に防いだ事案を表彰する「Good Job賞」を設けました。ポジティブ報告の定着をめざしました。